



広島県内のツメレンゲの分布図

## シダ植物の調査・導入状況

竹下 宏

本園では、開園前から、本邦産シダ植物の収集を行っていたが、開園後は、シダ展などを開催するため、さらに調査・収集を進めている。その結果、現在約230種を栽培・保存している。

ここでは、昭和51年から昭和54年3月までに収集した主なシダの調査・導入状況を報告する。

昭和51年9月13日～16日 高知県内

高知県立牧野植物園の指導を得て、安芸市名村川、室戸市下里、甲ノ浦、東洋町野根、高知市五台山の5カ所で、暖地性シダ60種を確認した。

主なシダ： エダウチホングウシダ、スジヒ

トツバ（室戸市下里）

クサマルハチ（東洋町野根）現在、カンチクの下に自生しており、全貌はつかみにくいが、約200個体程度の自生があるとみられ、八束のクサマルハチ群落より大きい。

昭和52年6月30日 佐伯郡吉和村汐原

汐原では、ヤマドリゼンマイのみごとな群落を観察し、冠山中腹においては、ショウキランの自生を確認し、一部を標本とした。

主なシダ：ヤマソテツ、ヤマドリゼンマイ、リュウメンシダ

昭和52年7月11日 広島市安佐町宇賀峽

この調査は、シダ展のための調査及び標本収集を目的として、宇賀峽入口から高山への分岐点がある地点までの約3kmの区間で、主に道路沿いに行った。

主なシダ：クジャクシダ、コバノイシカグマ、イノデモドキ、ホソバコケシノブ、キヨタキ

シダ、ナライシダ、シノブ

昭和52年8月21日 宇賀峽

前回に続いて、2度目の宇賀峽であるが、今回の調査は、日本シダの会の観察・収集会として行われたものに、参加しての調査である。

調査は毛木から、宇賀峽入口を経て、高山への分岐点までの間で行い、故倉田悟東京大学教授の同定のもとで、とくに雑種のシダの確認に成果があった。

主なシダ：ホソバシヨリマ（本州では、駿河、長門市につぐ3番目の自生地として貴重である。）、フタツキジノオ（オオキジノオとキジノオシダとの雑種）、サカゲカタイノデ（カタイノデとサカゲイノデとの雑種）、ミツイシイノデ（カタイノデとサイゴクイノデの雑種）、アカメクジャク（イヨクジャクとノコギリシダの雑種）、ハルムクゲシケンシダ、オクタマシダ、セフリイノモトソウ、ウラゲイワガネゼンマイ、フイリハカタシダ。

昭和53年4月15日 高知市

高知県立牧野植物園の協力を得て高知市介抱のお宮の森周辺で調査を行い、数種を確認した。また同植物園から、トサノミゾシダモドキ、オトコシダの2種の寄贈を受けた。

主なシダ：シモツケスリトラノオ、ギフベニシダ、ナチクジャク

昭和53年7月16日 広島市周辺

日本シダの会の指導を得て、不明山周辺など興味あるシダの自生地数カ所調査を行った。

主なシダ：タニヘゴ（沼田町大森八幡神社）カタイノデ、ヤシヤゼンマイ、オオバヤシヤゼンマイ、ウスバミヤマノコギリシダ（以上不明山周辺）、オニヒカゲワラビ（安佐町布）なお、ウスバミヤマノコギリシダは、山口の真崎氏が発見したもので、広島県内では貴重なものであるが、現在では、植林地の伐材のため、環境が一変し、その存続が危ぶまれている。

昭和53年8月6日 岡山県西栗倉村若杉峠

ここでの調査は、前年の宇賀峽に続く日本シダの会中国支部の観察・採集会に参加して行ったものである。若杉峠付近は貴重なブナを中心

とした天然林でおおわれ、シダも平地ではみられない、北方系のものが多数観察できた。また林床ではチュウゴクザサとチマキザサの混生がみられ、さらに、イワウチワが広い範囲に渡って群落を形成していた。

主なシダ：オンシダ、ミヤマベニシダ、シノブカグマ、シラネワラビ、タカネサトメシダ、ミヤマノキシノブ、オシヤグジデンシダ

昭和53年10月27日 帝釈峡周辺

雨のため調査は道路沿いに限られ、十分ではなかったが、好石灰岩性のツルデンシダやコタニワタリなどを確認できた。

昭和54年2月15日～18日 高知県内

足摺、室戸、野根、佐喜浜町など数カ所で調査を行った。なお、足摺以外では、高知県立牧野植物園の協力を得て調査を行った。

足摺においては、窪津の漁港がある付近の国道わきの洞穴の入口付近に、ホウライシダがびっしりと付着しているのが観察できた。また、赤磐の小さな谷に入ると、シロヤマゼンマイの1.5mぐらいの株が数株、自生していた。室戸岬では、コウラボンを捜したが、残念ながら見つかることができなかった。佐喜浜町では、佐喜浜川を上流まで登ると、川沿いの岩場に、キクシノブの群落がみられた。東洋町から佐喜浜までの海岸線には、ほとんど人家はみられないが、この間で、先日、高知県では最東端となるカツモウイノデの自生が発見されたことがあったので、東洋町付近の谷に入り調査したところ、数多くの自生を新たに確認することができた。最後に、天然記念物となっている、安芸市の伊尾洞シダ群落のホウライシダを観察したが、ここのは、小羽片の切れ込みが、窪津で見たものと比較して浅く、丸みをおびていた。

主なシダ：ホウライシダ（窪津）、オオハナワラビ（高知市介抱）、キクシノブ、イタチシダモドキ（佐喜浜）、カツモウイノデ（東洋町御崎付近）、アオガネシダ（野根）

以上、主なシダの調査・収集状況を示したが、上記以外にも、雑種のシダで分布上興味深いもの、また、鑑賞価値が高いものなどを、今後もさらに収集・充実させていきたい。